

平成30年度 防衛大学校入校式
防衛大学校長式辞

本日、ここに平成30年度防衛大学校入校式が無事に挙行されました。本年度は、本科第66期531名、大学院にあたる理工学研究科前期（修士）課程54名、同後期（博士）課程10名、および総合安全保障研究科前期（修士）課程15名、同後期（博士）課程2名の学生諸君を迎えることができました。

本年も、本校はアジア諸国から数多くの優秀な留学生諸君をお迎えしました。本日本科に入校するのは、第2学年に編入する大韓民国留学生2名のほか、日本語研修生として、タイ王国、フィリピン共和国、ベトナム社会主義共和国、モンゴル国、カンボジア王国、東ティモール民主共和国、ラオス人民民主共和国、およびミャンマー連邦共和国からの留学生22名の諸君です。

また昨年度入校した留学生24名の諸君は、本校での1年にわたる日本語研修を経ていよいよ本科課程に進むこととなります。同期の日本人学生と切磋琢磨して、ますます勉学に励むことを期待します。

すべての新入生諸君に対して、本校を代表して、心よりお祝いと歓迎の意を表します。

新入生諸君、入校おめでとう！

本日の入校式に当たり、山本ともひろ副大臣をはじめ多数のご来賓、そして全国から数多くのご家族・ご親族のご臨席を賜りました。ご列席の皆様方に対し、本校を代表して、厚くお礼を申し上げます。

本日の入校式には、防衛大学校にちょうど60年前、昭和33年（1958年）に入校された第6期の先輩方、つまり80歳を目前に控えた方々が多数ご列席されています。本日は、第6期のホームカミングデーであり、ご家族も含めて約200名の方々が、新入生諸君を激励するためにご列席されています。

ご列席の皆さま、戦後日本の守護神として、我が国と地域の平和と安全に大きな役割を果たされた第6期の先輩たちに盛大な賛辞と拍手をお願いいたします。

お帰りなさい！

新入生諸君にはとても想像がつかないでしょうが、今から60年後、同じようにホームカミングデーに際して、この防大の地、小原台に戻ることになります。今日この66期の入校式の日、6期生、つまり60年前の新入生が同席していたこと

を覚えておいてください。諸君たちは、今から60年後、126期の新入生を目撃することになります。

防衛大学校は言うまでもなく、将来の自衛隊を支える幹部を養成する大学であります。普通の大学とはその性格を異にしております。自衛隊は日本とそこに住む国民の平和と安全を守り、世界の平和のための取り組みに参加することを目的として存在する実力組織であります。

今日の北朝鮮の核・ミサイル開発や中国の拡張傾向、世界各地で多発する地域・民族紛争や海賊活動、国内外の深刻な自然災害対処と復興支援など、国内のみならず世界から自衛隊の出動が求められる活動範囲は確実に広がりつつあります。防大は、そうした重要な任務を司る自衛隊の中核的人材を育てる唯一の専門大学であります。

私は防大に着任して6年、この学校は間違いなく日本でまさにトップクラスの大学であるとの確信を持っております。その理由はたくさんありますが、そのうちの重要な点をいくつかご紹介したいと思います。

第一に、防大の教育水準の高さです。防大は一般の大学が授ける教養・専門科目は当然のこと、防衛学という本校の特色ある科目の履修を義務付けられます。一般大学では124単位が卒業に必要な単位ですが、防大は152単位です。これはおそらく日本一のレベルでしょう。つまり、知的素養を身に着ける意味で、防大は最も厳しい大学なのです。一般大学でしばしばみられる授業の無断欠席は、防大では許されません。

しかも、学生約2,000人に対して教官が320人弱、つまり専任教員一人に対して学生数は約6人、それに加えて70人を超える若く優秀な自衛官が指導官として生活をともにしています。こうした少人数の教育体制は日本の大学ではまさにトップクラスであり、非常に丁寧な教育が行われていることになります。加えて、防大には大学院課程である研究科もあります。

第二に、防大は大学であると同時に職業訓練の場でもあります。一般大学は入試と就職に最大の関心を持ちますが、防大には就職活動がありません。もちろん陸・海・空という区分けと将来的な職種の違いはありますが、自衛隊に就職する道が全員に開けております。

そのために、防大在学中に必要な数多くの素養を身に着けることになります。学術については先ほど述べた通りですが、それ以外にまずは体力と訓練があり、日常的な体力錬成に加えて、学生全員が校友会と呼ばれる体育系の部活動に入ることになります。

また4年間で約1,000時間、各地の自衛隊の部隊に入って各種の訓練を積み

ますし、4つの大隊に分かれた学生舎での団体生活を通じて、チームワーク、団結心、絆意識などを養うこととなります。さらに近年では、英語能力の向上のために各種のプログラムも組まれています。

つまり、防大では、将来の仕事の内容と意義を考慮して、心身ともにバランスの取れた国際人を育てることに意を尽くしているのです。

第三に、防大のもつ圧倒的に重要な存在意義と、そこで培われる使命感（ミッション）であります。一般の日本の大学では、少子化による影響で学生の獲得に奔走しておりますが、やがては廃校もしくは合併が起こるとも予想されています。しかし、一般大学の場合は、大学機能の多くが別の大学による代替が可能です。しかし、他方、防大は我が国に一つしかない士官学校であり、他の大学がこの役割を担うことはできません。

しかも防大は、以上のような包括的な教育と指導を通して、国と国民に奉仕する、つまり他人（ヒト）のために人生を捧げる強い使命感（ミッション）を涵養することに最大の目的を置いています。これは戦後防大が時間をかけて創り上げてきた教育の本旨であります。防大は武人を作るだけでなく、紳士・淑女を作る、つまり良き社会人を作ることにその本質があるからであります。

本日ご臨席されている第6期の卒業生は、その草創期を榎智雄初代学校長とともに創り上げた方々であります。戦後の自衛隊の中核を支えたのは防大卒業生であり、今日の自衛隊に対する国民からの強い支持は、まさに防大教育が正しかったことを証明しています。

以上のことから、私は防大がその質と内容において、日本のトップに位置する大学であるとの確信をもっております。

しかし、防大はそうしたことに満足することなく、絶えず創造的に革新を続けます。「世界一の士官学校」、これが現在の防大が目指す目標であり、新入生諸君たちは世界水準の中で生きてゆかなければなりません。世界から多くの留学生諸君が防大を目指してくれていること、そして留学生諸君たちが卒業後本国で大きな活躍をしてくれていることにも、防大の世界的な位置が示されています。

今後とも、防大は伝統を基礎に置きつつ、創造的な革新を続けます。そこには若い力が必要です。新入生の諸君たちは、今日から防大を創造する一員として我々の仲間に加わったのです。

改めて、新入生諸君の入校を心から歓迎いたします。

入校、おめでとう！

平成30年4月5日
防衛大学校長 國分 良成